

- 問1 大正時代から現代までの日本の発電電力量の推移を整理した資料において、2011年の東日本大震災以降、電源構成に現れた顕著な変化とその影響についての説明として、正しいものを選択してください。（2023年 北海道公立入試 類似）
1. 原子力発電の割合が大幅に低下し、その不足を補うために天然ガスや石炭による火力発電への依存度が再び高まった。
 2. 太陽光や風力などの再生可能エネルギーの普及が急速に進み、震災から数年以内に火力発電を上回る主力電源となった。
 3. 電力不足を解消するために海外の国々と送電網を連結し、電力の輸入を開始したことで国内の発電量は減少した。
 4. 原子力発電所の稼働停止に伴い、水力発電が再び日本の総発電電力量の5割以上を占める主要な電源となった。
- 問2 秋田県、静岡県の天竜川流域、および奈良県の吉野地方は、日本の林業において非常に重要な役割を果たしている地域です。これらの地域で共通して大規模に生産され、日本の住宅建築などに広く利用されている代表的な針葉樹の名称を選択してください。（2014年 沖縄県公立入試 類似）
1. ブナ
 2. スギ
 3. ヒノキ
 4. クヌギ
- 問3 特定の地域における人口移動において、他の地域から移り住んできた「転入者数」よりも、他の地域へ移り住んだ「転出者数」の方が多い状態を何といいますか。最も適切な用語を選択してください。（2017年 群馬県公立入試 類似）
1. 合計特殊出生率の低下
 2. 転出超過
 3. ドーナツ化現象
 4. 自然減
- 問4 1985年から2015年にかけての大阪府の統計において、約80万人から60万人台へと大幅に減少している15歳から64歳までの人口区分を何と呼びますか。最も適切な名称を選択してください。（2018年 大阪府公立入試 類似）
1. 高齢者人口
 2. 年少人口
 3. 生産年齢人口
 4. 非労働力人口
- 問5 豪快な放水で知られる黒部ダムは、険しい山岳地帯に建設されています。このような場所にダムが建設され、発電が行われる理由として最も適切な説明を選びなさい。（2017年 山形県公立入試 類似）
1. 大規模な太陽光発電パネルを設置するための広大な平坦地を、ダムの湖面上に確保するため。
 2. 地熱発電を行うために必要な高温の地下水が、標高の高い山岳地帯に集中しているため。
 3. 急峻な地形による大きな高低差を利用することで、効率よく水力発電を行うことができるため。
 4. 山間部は平地よりも降水量が極端に少ないため、貴重な雨水を一滴も逃さず貯水するため。
- 問6 1970年代から現代にかけて、東京都中央区の勝どきなどの沿岸部（ウォーターフロント）では、大規模な景観の変化が見られます。かつては工場や倉庫が密集していた地域が、現在では高層マンションや商業施設が立ち並び地域へと変貌した主な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 重化学工業のさらなる発展により、最新鋭の巨大工場が沿岸部に集中したため。
 2. 都市部での過疎化を食い止めるため、政府が農地を宅地に転換する政策を進めたため。
 3. 都心の地価が下落し、低層の戸建て住宅が広範囲に建設されるようになったため。
 4. 産業構造の変化にともない、工場の跡地などが住宅地や商業地へと再開発されたため。
- 問7 集積回路（IC）の輸送において、輸送コストが高い航空輸送が積極的に利用される背景や理由を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2021年 岩手県公立入試 類似）
1. 原料である原油や鉄鉱石を産地から直接、高速で加工工場へ運び、その場で製品化してすぐに市場へ出す必要があるから
 2. 製品の価格に対して輸送費が占める割合が相対的に低く、かつ製品の寿命が短いため迅速な供給が求められるから
 3. 一度に大量の在庫を抱えることを防ぐため、あえて輸送力の小さい航空機を使い、世界各地へ少しずつ配送する仕組みをとっているから
 4. 集積回路は衝撃に極めて弱いため、船舶の揺れを避け、常に水平を保つことができる航空機の貨物室が唯一の手段だから
- 問8 日本の貿易において、成田国際空港は横浜港などの主要な港と比較すると、輸出貨物の総重量が著しく少ない一方で、輸出総額（金額）では横浜港を上回るほど非常に高い数値を示しています。このような特徴が見られる理由として、成田国際空港の主な輸出品目にはどのような性質があるからですか。最も適切な説明を選びなさい。（2021年 静岡県公立入試 類似）
1. 石油や天然ガスなどの、輸入した原材料をそのまま再輸出する品目が大半を占めているため。
 2. IC（電子回路）や精密機械など、重量が軽い割に高価で、付加価値が高い製品が多いため。
 3. 野菜や果物などの、鮮度は重要だが単価が極めて低い農作物が輸出の中心となっているため。
 4. 鉄鋼や自動車などの重量が重く、一度に大量に運ぶ必要がある製品が中心であるため。
- 問9 かぼちゃの入荷統計において、国内産が多く出回る6月から11月に外国産の輸入が減少し、国内産が不足する12月から5月に外国産の輸入が増加する仕組みが見られます。このような供給体制を維持するために、日本が主に行っている工夫として適切な説明はどれですか。（2016年 奈良県公立入試 類似）
1. 国内産の価格を維持するために、国内産の収穫時期にのみ高い関税をかけて輸入を禁止している。
 2. 日本と季節が反対になる南半球の国々など、収穫時期が異なる地域から輸入を行っている。
 3. 外国産の鮮度を保つため、収穫から数ヶ月間、現地の大型冷蔵庫で保管してから日本へ輸送している。
 4. 国内産の品質が低下する冬の時期にのみ、品種改良された輸入専用のかぼちゃを海外で生産させている。
- 問10 ある県の農業に関するデータにおいて、農業に携わる人々のうち65歳以上の割合が50%を超えていることが示されています。このように農業の中心となる人々の年齢が上がることによって引き起こされる直接的な課題として、最も適当なものを1つ選びなさい。（2026年 宮崎県公立入試 類似）
1. 管理されなくなった農地が放置される耕作放棄地の増加
 2. 都市部への人口集中による国内の食料消費量の激減
 3. 外国からの輸入農産物に対する関税の引き上げ
 4. 施設園芸農業の普及による作物の生産調整
- 問11 日本の原子力発電所が、人口密集地から離れた海岸沿いに主に立地している理由の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2026年 沖縄県公立入試 類似）
1. 大量の冷却水を確保する必要があるという技術的要因と、事故時の安全性を考慮するという社会的要因。
 2. 燃料となるウランを大型船で頻繁に運び込む必要があるという輸送的要因と、山岳地帯を避けるという地質的要因。
 3. 都市部の地価高騰を避けるという財政的要因と、地熱を利用するために火山帯を避けるという環境的要因。
 4. 送電効率を最大化するために消費地から離すという経済的要因と、強風を利用するという気象的要因。
- 問12 高知県で盛んななすの促成栽培において、12月から5月にかけての市場の「出荷量」と「価格」の関係、および農家の「収入」への影響について正しく説明しているものはどれですか。（2020年 茨城県公立入試 類似）
1. 他県産の出荷量が減少して市場価格が高くなるため、その時期に出荷することで農家の収入が増える。
 2. 出荷量に関わらず市場価格が一定になるよう調整されているため、農家の収入は出荷時期に左右されない。
 3. 自県からの出荷量を抑えることで市場価格を高く維持し、少ない販売数で農家の収入を安定させる。
 4. 他県産の出荷量が急増して市場価格が安くなるため、薄利多売によって農家の収入を維持する。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 原子力発電の割合が大幅に低下し、その不足を補うために天然ガスや石炭による火力発電への依存度が再び高まった。	2011年の東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故により、国内の多くの原子力発電所が運転を停止しました。それまで電源構成の約3割を占めていた原子力の穴を埋めるため、既存の火力発電所の稼働率を上げたり、古い設備を再稼働させたりしたことで、化石燃料（液化天然ガスや石炭など）への依存度が急増しました。これにより、燃料輸入費の増大や二酸化炭素排出量の増加が課題となりました。
問2	答え 2 スギ	秋田県の「秋田スギ」、静岡県県の「天竜スギ」、奈良県の「吉野スギ」は、日本の三大美林や優れた人工林の産地として全国的に有名です。これらはすべて針葉樹であり、加工がしやすく建築材としての適性が高いため、日本の林業において最も主要な樹種となっています。
問3	答え 2 転出超過	人口の増減には、出生数と死亡数の差による「自然増減」と、転入者数と転出者数の差による「社会増減」があります。転出者数が転入者数を上回っている状態は「転出超過」と呼ばれ、その地域の人口減少を引き起こす大きな要因となります。対義語は、転入者が転出者を上回る「転入超過」です。
問4	答え 3 生産年齢人口	15歳から64歳までの層は「生産年齢人口」と呼ばれ、社会の経済活動を支える中核となる人々を指します。日本の人口構成の変化では、この層が減少を続けていることが大きな課題となっています。統計上でも、1980年代半ばから現代にかけて、多くの地方自治体でこの層の急激な減少が確認されています。
問5	答え 3 急峻な地形による大きな高低差を利用することで、効率よく水力発電を行うことができるため。	水力発電は、高い位置にある水のエネルギーを回転力に変えて電気を作る仕組みです。そのため、黒部ダムのような急峻な地形は大きな落差を得やすく、発電に適しています。また、ダムは下流の洪水を防ぐ流量調節の役割も果たしています。
問6	答え 4 産業構造の変化にともない、工場の跡地などが住宅地や商業地へと再開発されたため。	日本の産業構造が変化する中で、都市近郊の沿岸部にあった工場や倉庫が移転・閉鎖されました。その広大な跡地を利用して、高層マンションや大規模な商業施設を建設する「ウォーターフロントの再開発」が進められました。これにより、職住近接を求める層が流入し、都市部の景観が大きく変わることとなりました。
問7	答え 2 製品の価格に対して輸送費が占める割合が相対的に低く、かつ製品の寿命が短いため迅速な供給が求められるから	集積回路（IC）は非常に高価な製品であるため、航空輸送を利用しても、製品価格に対する輸送費の割合が他の品目に比べて小さく済みます。また、ハイテク製品は技術革新のスピードが速く、市場の需要に合わせて迅速に世界中へ届ける必要があるため、スピードに優れた航空輸送が選ばれています。原油や鉄鉱石は航空輸送には向かない重量物であり、大量輸送によるコスト削減が優先されます。
問8	答え 2 IC（電子回路）や精密機械など、重量が軽い割に高価で、付加価値が高い製品が多いため。	航空輸送は船舶輸送に比べて運賃が高いため、輸送コストを負担できるだけの「付加価値」が高い製品の輸送に適しています。IC（電子回路）や医薬品、精密機械などは、重量や体積が小さい割に価格が非常に高いため、成田国際空港のような拠点で多く扱われます。一方、鉄鋼や自動車などの重厚長大な製品は、一度に大量に運んでコストを抑える必要があるため、主に港から船舶で輸出されます。
問9	答え 2 日本と季節が反対になる南半球の国々など、収穫時期が異なる地域から輸入を行っている。	特定の農産物を一年中安定して供給するためには、収穫時期が異なる地域を組み合わせる必要があります。かぼちゃの例では、日本の冬から春にかけて、季節が逆で収穫期にあたるニュージーランドや、温暖なメキシコなどから輸入することで、国内産の入荷量が少ない時期の需要を満たしています。これは、食料の安定供給（フードセキュリティ）や価格の安定に大きく寄与しています。
問10	答え 1 管理されなくなった農地が放置される耕作放棄地の増加	農業に従事する人々の高齢化や後継者不足が進むと、農地の管理を行うことが困難になり、作物が作られなくなった耕作放棄地が増加する原因となります。
問11	答え 1 大量の冷却水を確保する必要があるという技術的要因と、事故時の安全性を考慮するという社会的要因。	原子力発電は、発電過程で発生する熱を冷やすために膨大な量の水を必要とします。そのため、海水を冷却水として利用しやすい海岸沿いに立地しています。また、万が一の事故が発生した際の影響を最小限に抑えるため、人口密集地から一定の距離を置いた場所が選定されるという社会的・安全上の背景があります。
問12	答え 1 他県産の出荷量が減少して市場価格が高くなるため、その時期に出荷することで農家の収入が増える。	野菜の価格は、市場に出回る「出荷量」によって大きく変動します。なすの場合、冬から春は多くの地域で栽培が困難になり出荷量が減るため、価格が年間で最も高い水準（1kgあたり400円～550円程度）まで上昇します。このタイミングで供給を行うことで、1回の取引あたりの単価が上がり、農家は効率的に収入を得ることができます。このように市場の動向を見て出荷時期を調整することは、地理的な条件を活かした重要な農業戦略です。